

平成25年度鳥取県立高等学校入学者選抜
学 力 検 査 問 題

国 語

(第1時限 9:20~10:10 50分間)

注 意

- 1 「始め」の合図があるまで、開いてはいけません。
- 2 問題は全部で6題あり、10ページまでです。
- 3 「始め」の合図があったら、まず、解答用紙に受検番号を書きなさい。
- 4 答えはすべて解答用紙に書きなさい。
- 5 問題を読むとき、声を出してはいけません。
- 6 「やめ」の合図で鉛筆を置きなさい。

【問題 一】 次の各問いに答えなさい。

問一 次の①～④の——部について、漢字は読み方をひらがなで、カタカナは漢字に直して楷書で、それぞれ書きなさい。

- ① 既成の考え方を捨てる。 ② 軽率な行動を慎む。 ③ 雨水が夕れる。 ④ シンキ一転して出直す。

問二 次の漢文を訓読する場合、どの順番で読めばいいですか。例を参考にして、読む順番を□の中に、数字で書きなさい。

例 花^ハ 欲^ス 然^モ 然^ト
① ③ ②

漢文 □ 行^ク 百 里^ヲ 者^ハ 半^ニ 九 十^ヲ

問三 「大洋」と「科学」を、それぞれ次のように書いた時、一方だけに当てはまる行書の点画の特徴を、後のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

大洋 科学

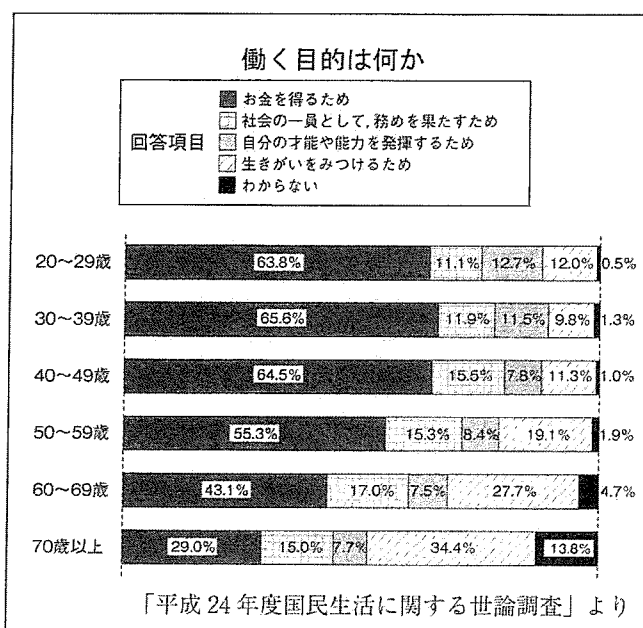
- ア 点画の丸み イ 点画の形や方向の変化 ウ 点画の連続 エ 点画の省略

【問題 二】 山本さんたちのクラスでは、国語の学習でプレゼンテーションをするようになりました。次は、山本さんたちのグループの発表原稿とその際に使う予定の資料です。これらを読んで、後の問いに答えなさい。

発表原稿

みなさんは、自分の将来の仕事について考えたことがありますか、「何のために働くのか」ということについて、考えたことはありませんか。わたしたちは、ある調査結果をもとに考えてみました。

資料を見てください。この資料は、「働く目的は何か」という質問に対する回答を、年代別にまとめたものです。みなさんもこのグラフを見て、いろいろなことに気づくと思います。わたしたちは、割合が年代によって大きく違っている項目に着目しました。「わからない」という回答を除くと、年代によって大きく違うのは、「お金を得るため」と「**A**」です。



割合の違いが何を示しているかを話し合ううち、わたしたちはこのグラフを「ある人の生涯における考え方の変化」ととらえてみることにしました。そういう見方をすると、その人の考え方が年齢によって変化しているということになります。グループの話し合いでも、年代によって家族構成や社会の中での役割が変わるので、これはすごい自然なことだという意見で一致しました。

「何のために働くのか」というテーマで始めたわたしたちの話し合いですが、一番大切なのは、「その人にとっての働く目的は何か」ではなく、「その人が働く目的をしっかりと持っているか」ということなのだという考えにたどり着きました。

今回、いろいろ調べたり話し合ったりする中で、わたしたちは、働くことに対する見方や考え方が広がりました。そして、少し大げさかもしれませんが、自分の幸せについて考えるヒントを得たようにも思います。

問一 発表原稿中の **A** に当てはまる回答項目として、最も適当なものを、資料から抜き出して、答えなさい。

問二 次の 内の漢字を使って、大げさ と同じような意味を表す四字熟語を一つ作りなさい。

水・小・八・棒・田・七・針・異・我・同・転・大・倒・引

問三 山本さんたちの発表原稿からわかる発表の工夫についての説明として、適当なものを、次のア～エから二つ選び、記号で答えなさい。

- ア テーマ設定に至る経緯を具体的に述べ、問題意識を共有しようとしている。
- イ 発表の冒頭に問いかけを入れ、聞く人の気持ちを引き付けようとしている。
- ウ 具体的な調査結果にふれた上で、独自の観点で結論を伝えようとしている。
- エ 若い世代の考え方について詳細な分析をした上で、批判しようとしている。

問四 発表原稿中には、山本さんたちが誤った使い方をしている形容詞が一語あります。その一語を抜き出し、正しい使い方に書き直しなさい。

【問題 二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(□内の数字は各形式段落の段落番号を示しています。)

- 1 こどものとき実によく字を書いたのに、大人になると、どうしてこんなことになったのかというほどあわれな字を書く人がすくなくない。こどものときは、無心である。うまく書こうとは思われないから、かえって、のびのびしたい字になった。すこしほめられたりして自信がつくと、こんどは上手に書いて、ほめられたいという気持ちがおこってくる。そうすると、なかなか上達しない。文章を書くのも同じであって、欲を出すと逆効果になる。
- 2 まだまだ書けないと思つていても、もう書けると、自分に言いかけ、とにかく書き出すと、書くことはあるものだ。おもしろいのは、書いているうちに、頭の中に筋道が立ってくる。頭の中は立体的な世界になっているらしい。あちらにもこちらにもたくさんのことが同時に自己主張している。收拾すべからざる状態という感じは、そこから生じるのであろう。
- 3 書くのは線状である。一時にはひとつの線しか引くことができない。「AとBとは同時に存在する」と考えたとしても、AとBとを完全に同時に表現することは不可能で、かならずどちらかを先に、他をあとにしないではいられない。
- 4 裏から言うと、書く作業は、²立体的な考えを線状のことばの上ののせることである。なれるまでは多少の抵抗があるのはしかたがない。ただ、あまり構えないで、とにかく書いてみる。そうすると、もつれた糸のかたまりを、一本の糸をいと口にして、すこしずつ解きほぐして行くように、だんだん考えていることがはつきりする。
- 5 また、書こうとしてみると、自分の頭がいかに混乱しているかがわかつたりすることもある。そういう場合でも、とにかく書いてみようとしていれば、すこしずつだが、筋道がついてくる。
- 6 頭の中にたくさんのことが表現を待っている。それが一度に殺到したのでは、どれから書いたらよいか、わからなくなってしまう。ひとつひとつ、順次に書いて行く。どういう順序にしたらいいかという問題も重要だが、初めから、そんなことに気を使っていたのでは先へ進むことができなくなる。とにかく書いてみる。
- 7 書き進めば進むほど、頭がすつきりしてくる。先が見えてくる。もつともおもしろいのは、あらかじめ考えてもいなかっただことが、書いているうちにふと頭に浮んでくることである。そういうことが何度も起れば、それは自分にとってできのよい論文になると見当をつけてもよからう。
- 8 書き出したら、あまり、立ち止まらないで、どんどん先を急ぐ。こまかい表現上のことなどでいちいちこだわり、書き損じを出したりしていると、勢いが失われてしまう。
- 9 いかにか論文だからとは言え、書いては消し、消しては書くといったことをしていれば、何を言おうとしているかわからなくなる。一瀉千里に書く。とにかく終りまで行ってしまう。そこで全体を読みかえしてみる。こうなればもう、訂正、修正がゆつくりできる。
- 10 推敲する。部分的な改修ではなく、構造的変更、**a**、まん中の部分を冒頭へ、**b**、最後部を最初へもつてくる、という大手術を加える必要もある。ゆとりをもって、工夫をこらすことができる。
- 11 第一稿が、^{*}満身創痍になつたら、第二稿を作る。これもただ第一稿の訂正のあとを写しとるといふのではつまらない。新しい考えをなるべく多くとり入れるように努めながら、第二稿を作りあげる。これもまた推敲する。それで目立って改善されたようだったら、第三稿を作る。もうこれ以上は手を加える余地がないというところに至ってはじめて、³定稿にする。書きなおしの労力を惜しんではならない。書くことに

問六 次の [] 内は ³ 定稿 の意味を国語辞典で調べたものです。空欄「A」には適切な動詞を本文中から抜き出した上で当てはまる形に活用させて、空欄「B」には「稿」の字から推測される熟語を本文中から抜き出して、それぞれ答えなさい。

ていこう【定稿】：「A」で、完成させた「B」

問七 ⁴ 思考の昇華の方法もおのずから体得される とはどういうことですか。それを説明したものととして、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の考えや思いを確認し、さらに強化していくということも、身をもって体験できるということ。
- イ 自分の考えや思いを理解し、他者に発信していくということも、自分にとって得になるということ。
- ウ 自分の考えや思いを洗練し、さらに高めていくということも、自然とできるようになるということ。
- エ 自分の考えや思いを否定し、新しい発想を持つということも、知らないうちに行われるということ。

問八 『I』に入る古典文学の作品名を、漢字で書きなさい。

問九 次の [] 内はもともと本文中にあった形式段落の一つです。本文中のどの段落の後に入りますか。最も適当な段落を本文中から選び、その段落番号を答えなさい。

全速力で走っている自転車は、すこしくらいの障害をもつとしないで直進できる。ところがノロノロの自転車だと、石ころひとつで横転しかねない。速度が大きいほど ^{*} ジャイロスコープの指向性はしつかりする。

(※注) ジャイロスコープ：もともと船舶用の機器で、常に一定の方向を示すための装置

問十 ⁵ 頭の中で考えているだけではうまくまとまらないことが、書いてみると、はつきりしてくる。書きなおすとさらに純化する。ひとに話してみるのもよい。書いたものを声を出して読めば、いっそうよらしい。とありますが、これとほぼ同じ内容を簡潔に説明している部分を [15] 段落以外の本文中から二十字程度で探し、その最初と最後の五文字(句読点を含む)を抜き出して、答えなさい。

【問題四】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

【この場面までのあらすじ】 主人公は若き日にメキシコを旅し、DF（メキシコの首都の通称）に向かう汽車に乗った。途中、モレリアという町の駅で、停車時間中に降り立ったホームで見かけた少女に、声をかける。彼女は祖母を待っているという。二人で話をしているとやがて祖母が到着した。

「おばあちゃん、遅いよ！」と少女は言つてトランクから立ち上がった。

「まだ汽車はここにいる。ちつとも遅くないじゃないか」

こちらに向かつて悠然と歩きながら、少女の祖母は大きな声で返事をした。

少女は彼の方を見てもう一度にっこり笑つた。おばあちゃんてこういう人なのよ、と表情が言つている。

でもこの国では万事につけて遅すぎるということはないのだ。このおばあちゃんを待たない汽車はない。たとえこの汽車が出てても、つぎにはまた別の汽車がある。誰にでも時間はたっぷりある。そういう国だということも旅の途中で知つたことだ。

彼女がトランクを持つたので、彼は手を伸ばしてそれを取つた。男の義務だ。彼女の体温が残る取っ手を握るのだと思うと、嬉しい義務だつた。

汽車の方へ歩き出す。おばあちゃんが孫のよりもっと古風な鞆なまぐを持っていたので、それも預かる。いきなり現れた見知らぬ外国人の手伝いをおばあちゃんは訝いぶかる風もない。どんな場合にも手伝いはいると信じてこの歳まで生きてきたかのようだ。

乗車口のところに行つて、まずおばあちゃんが乗るのを待ち、次に少女が乗るのを待ち、それから二つの荷物を渡した。

彼女はまたにっこり笑つた。この笑いにほくは、つかまつているんだ、と彼は思った。

「ありがとう」

「きみ、名前は？」

「レメディオス。あなたは？」

急いで答えて二度くりかえしたけれど、外国の名だし、彼女

は聞き取れなかつたかもしれない。

客車の奥の方でおばあちゃんがレメディオスを呼んだ。

彼女はそちらを振り返つて何か言い、こちらを向いた。

a 彼の方は何も言うことがなくなつてしまつて、「アスタ・ルエ

ゴ また会おうね」とあてのないことを言つて、歩き出した。

しばらく歩いて振り返ると、レメディオスは乗車口から身を乗り出して手を振つていた。

機関車の方から汽笛が聞こえた。彼は走つて自分の車両に戻り、席に戻つた。隣の男が彼を見てうなずいた。よく帰つてきたと言わんばかり。

汽車が走り出した。

ともかくあの顔を忘れないようにしなければ。そうしたところで何がどうなるわけでもないけれど、ぜつたいに忘れないようにしなければ。どこかでまた会つて、仲よくなつて、この国の滞在をもっと延ばして、その先は……どうなるかわからない。汽車の中は夢想に向いている。彼は思うままに勝手なことを考えつづけた。

ずいぶん走つてから、汽車が駅に停まつた。

彼はまたホームに降りた。ひよつとしてあの子も降りてくるかもしれない。さつきの車両に行つてみることもできる。窓越しに話ができれば。

しかし彼女は降りてこなかつた。彼女の車両まで行つて窓から中を見ながらずつと歩いたが、反対側に坐つているのか、姿はなかつた。窓の位置はとても高かつたし、車内は見えない。乗り込むのはちよつとためらわれた。

ホームには人があふれていた。窓をずっと見て、諦めて、戻

ろうとすると、ホームの隅にバラを売っている男がいた。素焼きの壺つぼに黄色いバラばかりを数十本入れて、その前に黙って立っている。それでもバラが売り物だということは一目でわかる。首都に行く人が買うおみやげなのだろう。

彼はバラを一本買った。一本でいい。それで充分。男は棘とげで手を傷つけないよう新聞紙でバラをくるみ、「フェリシダーデス！ 祝福を！」と言って彼の手にそれをあずけた。形ばかりだとしてもいい言葉だ。

汽笛が鳴った。釣りを待つ間に汽車が動き出した。彼は急いで自分の席に戻った。渡す暇がなかった。

このバラをどうしよう？ またホームから探すのは見込みが薄い。それに汽車は始発駅からずいぶん走ってきた。次がもう終着駅のDFセントラルかもしれない。そうしたら人であふれるホームで彼女を見つめることはできないだろう。

彼はバラを手を立ち上がった。車内を行くしかない。実際の話、次々に連なる客車の中はとて込んでいた。座席はもちらん通路にもデッキにも人々は荷物を持ち込み、その上に坐り、喋り、食べ、手を動かし、荷物にもたれて寝ていた。その間を彼は、本当に **A** ようにして歩いた。人をかき分けるようにして進み、「ペルドネメ 失礼」という言葉を何度となく使った。彼女の車両が自分のところから何両目かわからない。五両目くらいだっただろうか。ええと、これで何両分来たんだらう？ そう思いながら次の客車に入った時、いきなり彼女の顔が視

問一 つかまっているんだ とはどのような状態ですか。その状態を表す熟語として、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 捕縛
- イ 拘束
- ウ 幻惑
- エ 魅了

問二 **2** 車内を行くしかない。 と思ったのはなぜですか。その理由を二つ、それぞれ「ホーム」という言葉を用いて、説明しなさい。

問三 **A** に入る表現として、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 石が坂を転がる
- イ 肩で風を切る
- ウ 針が布を縫う
- エ 木の葉が宙を舞う

野に飛び込んできた。三つ目の座席の通路側にこちらを向いて坐っていた。

彼女の方も彼を見つけて笑った。もう一度だけ「失礼」と言って車座になってトランプを手にした三人の少年たちの真ん中に足を踏み入れて一歩進み、レメディオスの前に立った。隣ではおばあちゃんがうつらうつらしている。

「Una Rosa Para ti. きみのためのバラ」と言って、黄色い花を彼女に差し出した。

「グラシアス ありがとう」

そう言ってレメディオスはバラを受け取った。

そこで突然、 **b** 彼には言うことがなくなった。その場に立つてもつと話をすることもできたはずだ。DFでの彼女の住所を聞き出したり、時間と場所を決めてまた会う約束をしたりもできたはずだ。だが、なぜかバラを渡したらそれでいいのだという思いが心を満たした。

じつと顔を見て、これから百年でも忘れないという気持ちで彼女の顔を見て、「 **B** 」と小さな声で言っただけ、 **3** ここまで辿ってきた困難な道を戻りはじめた。

同じ言葉を彼女に向けて二度使った。一度目はそのとおり実現したけれど、今度はもう会うことはないかわかっていた。

(池澤夏樹 『きみのためのバラ』)

問四 3 ここまで辿ってきた困難な道 とは具体的にどういことですか。それを説明したものととして、最も適当なものを、次のア

イから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア たかぶった心で、人をかき分けるようにして何両も進んできたこと。
- イ いっ終着駅に着くともわからず、見通しのないまま旅してきたこと。
- ウ 悩みから解放されないまま、遠くこのメキシコまでやってきたこと。
- エ 多くの人との出会いを重ねながら、少しずつ成長を続けてきたこと。

問五 「 B 」に入る会話文として、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア アスタ・ルエゴ またね
- イ フェリシダーデスー 祝福を！
- ウ ペルドネメ 失礼
- エ グラシアス ありがとう

問六 a 彼の方は何も言うことがなくなってしまう b 彼には言うことがなくなつた について、この二つの「言うことがなくなつた状態」における心情の相違を次のようにまとめる時、空欄 に当てはまるように、主人公の心情を、二十文字以上三十文字以内で書きなさい。

a が、少女との名残を惜しみながらも話題が見つからないもどかしさを表しているのに対して、
b は、 を表している。

問七 本文における「バラ」の持つ意味の説明として、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 主人公が少女に話しかける契機となるとともに、数年後の二人の再会をより確かなものにするためのもの。
- イ 主人公が少女に会いに行くことのきっかけとなるとともに、主人公の心情を前向きなものに変えるもの。
- ウ 主人公が少女に会いに行く口実を与えるが、その行為の唐突さゆえに少女に警戒心を抱かせてしまうもの。
- エ 主人公が少女にもう一度話しかける機会を作り出すが、気持ちを告げられないむなしさをもたらしもの。

問八 本文の表現の特徴を説明したものととして、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 日本語と外国語を並べることと会話のたどしさを表現し、人物の心のゆらぎやその交流の限界を具体的に描いている。
- イ 人物それぞれの内面に深く入り込んだ描写によってその個性を際立たせ、登場人物の交流の深まりを象徴的に描いている。
- ウ 短文でたまたみかけたり短い会話を織りこんだりすることでリズム感を出し、主人公の気持ちや情景を印象的に描いている。
- エ 時間の順序に沿った描写と感情を抑制した表現とすることで、人物の置かれた状況や生き方の違いを客観的に描いている。

【問題五】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ある人、小さな子犬 糸のこをいといたはりけるにや、その主人外ほかより帰りける時、¹ かの糸のこそその膝ひざにのぼり、胸に手をあげ、

口のほとりを舐ねり廻まる。これによつて、主人愛する事いやましなり。馬うまほのかに此由このよしを見て、うらやましくや思ひけん、

「※あつぱれ我も² かやうにこそし侍はんべらめ」と思ひさだめて、ある時、主人外より帰りける時、馬主人の胸にとびかかり、

顔を舐り、尾を振りてなどしければ、主人是こゝを見てはなはだ怒りをなし、棒をおほ取つて、もとの厩うまやにおし入れける。

そのごとく、人の³ 親□をわきまへず、わがかたより※ちそうがほ 馳走顔ちそうがほこそはなはだもつてをかしき事なれ。我程々に従つて、

其その 挨拶あいさつをなすべき也。

〔伊曾保物語〕より

(※注) あつぱれ…(とても感動して) ああ 馳走顔…親しい者としてちやほやするように振る舞うこと 挨拶…人への応対

問一 かの糸のこそその膝にのぼり を意味で区切つたものとして、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア かの・糸の・こそその・膝に・のぼり

イ かの・糸のこ・その・膝に・のぼり

エ かの糸の・こそその・膝に・のぼり

問二 ² かやう とありますが、

(1) 「かやう」を現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。

(2) 「かやう」の指し示す内容を現代語で書きなさい。

問三 本文には子犬と馬に対する主人の態度が対比的に描かれています。その内容を次のようにまとめた時、空欄□に当てる部分本文から抜き出して、答えなさい。

子犬に対して――

(対比的) ↔

馬に対して――

はなはだ怒りをなし、棒をおほ取つて、もとの厩におし入れける

問四 親³□の□に当てはまる漢字として、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 切 イ 密 ウ 愛 エ 疎

問五 本文で筆者が伝えたかったこととして、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 常に相手の顔色をうかがいながら人に接する必要があるということ。
イ 相手に対して乱暴しないよう常に気を付ける必要があるということ。
ウ 常に相手と自分との関係を考えて人に接する必要があるということ。
エ 相手に対して常にさわやかなあいさつをする必要があるということ。

【問題六】 次の資料1、資料2は、最近世界的に活躍した日本人の著書の一部です。これらを読み、あなたが感じたことで、人に伝えたいと思うことを、後の【条件】にしたがって書きなさい。

資料1 (ノーベル賞受賞者 山中伸弥教授の著書より)

薬理学から分子生物学へ、さらにはがんの研究、ES細胞の研究という具合に、研究テーマを変えていました。自分では変えるつもりはなかったのですが、予想外の実験結果に引きずられる形で、どんどん変わっていったのです。一つのテーマをコツコツと追究していくべきだといわれているのに、自分はコロコロと変えている。奈良に移り、成果を出せない状況の中で、「こんなんでええんかな」と自分の研究スタイルに自信が持てなくなっていました。

(山中伸弥・緑慎也 『山中伸弥先生に、人生とiPS細胞について聞いてみた』)

資料2 (女子サッカー日本代表 澤穂希選手の著書より)

ワールドカップでMVPをとって世界一になりましたが、わたし自身は、何も変わりません。

もちろん、人に見られることも多くなったり、応援してくれる人も増えました。その一方で、他の意見を持つ人もいますが、それはそれでいいと思います。100人いれば、100通りの意見があつて、いろんな考えの人がいるわけですね。

わたしは、本当に自分のことをわかってくれる人にわかってもらえればいいし、みんなから好かれようとも思っていないし、媚びを売るつもりもありません。

(澤穂希 『負けない自分になるための32のリーダーの習慣』)

【条件】

① 資料1、資料2のいずれか一つ、または両方の内容にふれ、資料から少なくとも一箇所以上引用すること。なお、引用した部分は一「」で示すこと。

② 題名は書かないこと。また、段落分けはしないこと。

③ 解答欄の七行以上、八行以内でまとめること。

④ 原稿用紙の正しい使い方にしたがうこと。